# 学 位 論 文 審 査 の 要 旨

| | | 要　　旨 |
|---|---|---|
| 学位申請者 | 髙山　純子<br>【ジェンダー学際研究専攻　平成26年度生】 | 本研究の目的は、子育て期の共働き夫婦がどのように家事に対処しているのかを、家事のマネジメントの視点から明らかにすることである。更に家事負担を軽減するための家事の外部化がどのように実施されているのかを夫婦の意思決定に着目して検討することである。研究方法は半構造化インタビュー調査で、対象者は首都圏に住む核家族で、末子が小学生以下の子どもを持つ共働き夫婦かつ炊事・掃除・洗濯のいずれかを日常的に分担している夫婦であることを条件とした。インタビュー調査は 2017 年 9 月から 2018 年 6 月にかけて実施され、計 32 名の協力者から得たデータは継続的比較法を用いて分析された。<br>主な結果として、家事のマネジメントは sentient activity（他者の生活と生存を支えるための行動）に基づく基本的なマネジメント、夫婦間の分担のためのマネジメント、家庭外とのマネジメントの 3 つに分類された。また、夫婦間の家事に対する期待水準の不一致から分担するのが困難と感じている対象者も多く、その対処法として妻は夫に任せる家事役割を再定義したり、夫は衝突を回避するために妻の要求に合わせるなどをしていた。家事の外部化は、経済的コスト、家庭内のニーズ、就業状況、周囲で利用者がいるのかなどが判断材料となっていた。<br>本審査委員会は平成 30 年 12 月 3 日、平成 31 年 1 月 22 日、平成 31 年 2 月 18 日の 3 回開催された。これらの審査委員会においては、学際的な視点から家事のマネジメントと外部化について焦点を当てたことは評価されたが、理論や概念の精査の必要性やデータの解釈を深めることなどが提案された。審査委員会の全てのコメントに対応した結果、かなりの改善が認められた。<br>審査委員会はインタビューデータの詳細な分析から夫婦間の家事のマネジメントのプロセスが検証できたこと、家族社会学や家庭経営学などの学際的な視点を援用して家事のマネジメントを多角的に捉えて分析したこと、家事がどのように行われるのかに関して sentient activity の視点から家事の「見えない」部分を検討したこと、家事の外部化における夫婦のマネジメントを明らかにしたことを高く評価した。<br>公開審査会は平成 31 年 2 月 18 日に行なわれ、発表は非常によく整理され、多くの質問に対して申請者は適切に応答した。審査委員会は本論文が本学大学院人間文化創成科学研究科の博士の学位の水準に十分達していることを認め、合格とし、博士（社会科学）Ph. D. in Sociology の学位を授与することを全員一致で決定した。 |
| 論文題目 | 子育て期の共働き夫婦による家事のマネジメント：<br>分担と外部化の視点から | |
| 審査委員 | （主査）　教授　　石井クンツ　昌子 | |
| | 教授　　小玉　亮子 | |
| | 教授　　平岡　公一 | |
| | 准教授　斎藤　悦子 | |
| | 准教授　西村　純子 | |
| インターネット公表 | ○　学位論文の全文公表の可否（　可　・　$\boxed{\text{否}}$　） | |
| | ○　「否」の場合の理由<br>ア．当該論文に立体形状による表現を含む<br>イ．著作権や個人情報に係る制約がある<br>$\boxed{\text{ウ}}$．出版刊行されている、もしくは予定されている<br>$\boxed{\text{エ}}$．学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている<br>オ．特許の申請がある、もしくは予定されている | |
| | ※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について | |